



■□■ menu ■□■

【hot issue】

GDN国際開発賞2010のテーマ発表

【news etc.】

- ▼GDNチーフ・エコノミストGeorge Mavrotas氏編集の書籍刊行
- ▼林薫氏によるGDN関連の論文情報
- ▼GDN最新ワーキングペーパー

【コラム】

私とGDN / アジア開発銀行研究所(ADB) 木原隆司総務部長



GDN国際開発賞2010に関するプレ・インフォメーションがGDN本部から発表されました。来年1月に南米コロンビアの首都ボゴタで開催される第12回GDN年次会合で、本賞の最終審査と受賞者の表彰が行われます。今回はこの情報と併せ、GDNチーフ・エコノミストGeorge Mavrotas氏編集による新著、また林薫GDN-Japanアドバイザーの最新論文情報などをお届けします。



【hot issue】 GDN国際開発賞2010のテーマ発表



GDN国際開発賞2010のテーマが“Development Finance”に決まり、GDN本部から発表されました。開発途上国支援に関わるほかの研究者の方々にも、ぜひ下記の情報をお知

らせてください。

PRE-ANNOUNCEMENT: GLOBAL DEVELOPMENT AWARDS AND MEDALS

COMPETITION 2010 GDN will soon launch [the annual competition](#)– the world’s largest in development research– that confers \$250,000 in grants each year. Nearly 6,200 researchers and development practitioners have participated so far. The theme of the 2010 Competition is Development Finance. Prizes will be awarded to outstanding research in the areas of External Capital Flows, Domestic Resource Mobilization and Innovative Sources of Development Finance. Also invited are innovative development projects from the grassroots level. <http://www.gdnet.org/cms.php?id=gdnews>

【news etc.】

▼GDNチーフ・エコノミストGeorge Mavrotas氏編集の“Foreign Aid for Development”刊行【概要紹介】GDN本部のチーフ・エコノミストGeorge Mavrotas氏の編集による新著です。同氏をはじめとして、Gustav Ranis氏、Sakiko Fukuda-Parr氏、Machiko Nissanke氏などの著者人が援助に関する最近の議論をレビューしています。扱われているテーマは2002年のモンテレイ・コンセンサス以降の援助をめぐるアジェンダの変遷、在援助と成長、援助の有効性、脆弱国・紛争国への援助、モダリティ、援助資金の吸収能力などです。援助供与国、被援助国がともに努力することによって、援助の非効率性、非有効性をもたらす障害を除去すべきこと、地球市民として誰もが途上国の貧困削減に責任を有していることなどが、全巻を通じた主要なメッセージです。

<http://www.amazon.co.jp/Foreign-Aid-Development-Challenges-Economics/dp/0199580936>

▼林薫GDN-JapanアドバイザーによるGDN関連の論文“Economic Integration and Infrastructure in Asia: Presentation and Discussion at the 2010 Global Development Network Conference in Prague”が、文教大学湘南総合研究所のSHONAN JOURNALに掲載されました。この論文につきましては、後日、GDN-Japanホームページにも掲載する予定ですが、早期に入手を希望される方は、GDN-Japan事務局 (dritrn-gdn-japan@jica.go.jp)までご依頼ください。

▼GDN本部の最新ワーキングペーパー

http://www.gdnet.org/cms.php?id=publications_listing&type_id=1

【コラム】～ 私とGDN ～

アジア開発銀行研究所 (ADB) 総務部長
木原 隆司

GDNが発足した1999年、小職は外務省から古巣の財務省(当時は大蔵省)に戻り、国際局の開発企画官を拝命することになりました。この役職は通常はOECD輸出信用部会やGEF(地球環境ファシリティ)などに関する事務を行っていますが、Director for Development Issuesという名前が示すとおり、開発に関することなら、他の課に属さないことを何でもやらされる「開発の遊軍課長」といった感じでした。部署の場所は、世界銀行などの国際開発金融機関(MDBs)を担当する開発機関課と、財務省の開発政策全般・予算・DAC/パリクラブ等を担当する開発政策課との間にあり、それが部署の性格を良く表しています。そのため、当時はその性格が良く分からなかったGDN関連の仕事が開発企画官のところに落ちてきたものと思われま

す。ただ、当時小職がGDNに関連してやったことは、1999年のGDNの第1回会合に関係してドイツに出張したことと、2000年12月に東京で行われた第2回年次会合から授与されることとなった「国際開発賞」(当時の大蔵大臣の名前を取って我々は「宮澤賞」としていました)をサポートしたことくらいで、GDNに対する基本的な対応は開発機関課で行っていました。というのは当初、GDNは事務局を世銀においており、事務局長を世銀のリン・スクワイヤ氏が務めていたため、「世銀の中の業務」という位置付けだったからです。

開発途上国・先進国の研究者・政策担当者間で「知識の共有」を行い、調査研究活動と実務のギャップを埋めることを目的に、政策と研究機関間、そして研究者と当局者間のネットワークとして世銀のイニシアチブで発足したGDNですが、将来は独立して開発途上国に移転することとされていました。また、当時はGDNの「国際機関化」は行わないとされていたと記憶しています。それで、世銀ビルから出たときも米国NPOとされました。

それから約10年を経て、GDNの機能や形態も次第に変わってきています。当初は開発知識を共有する「ネットワーク」を作るという目的でしたが、世銀自体が行っているDevelopment GatewayもWebによる開発知識の共有を目的とするため、むしろGDNは「知識創造」と「人材育成」に重点が置かれるようになります。「宮澤賞」も当初、ノーベル賞級の学者の応募を期待したのですが、現在はむしろアジアの若手研究者の育成に貢献しています。GDNは、設立協定の署名を経て2008年に国際機関ともなりました。

機能や形態は変わっても、「開発途上国と先進国間、研究者と政策担当者間の有機的なネットワーク」という性格は失ってはならないと思います。今後ともGDN-JAPANとしてだけでなく、アジアのネットワークと協力した活動をさらに推進していくことが望まれます。アジア開発銀行(ADB)の理事会の後押しもあり、ADBやアジア開発銀行研究所(ADB)で

も、現在、GDNとの協働が注目を集めています。



▽次回は2010年7月下旬に配信予定です。

▽お問い合わせやご意見、ご感想、また配信先の変更・解除は、こちらまでお願い致します。

dritrn-gdn-japan@jica.go.jp (GDN-Japan事務局)



発行：GDN-Japan事務局(JICA研究所 企画課内)

制作：JICA研究所 企画課 編集・発信ユニット

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5 JICA研究所内

<http://www.jica.go.jp/gdn/japanese/index.html>